



ブライツ・アセット株式会社

米株式そろそろ底打ち？

DOW30とS&P500のボリンジャーバンド(200日)は4σ割れ

DOW30とS&P500のボリンジャーバンド(200日)の過去推移を調べてみました。それぞれ4σを割ったところはいったん底打ちしています。ただし、2008年の世界経済不況の時は、その後、クレジット市場が機能しなくなりそこから半年間さらに売られ続けました。いまのところクレジット市場はぎりぎり保っていますが、レバレッジド・ローン市場がさらに崩れれば、2008年～2009年のようなようになります。株価も大事ですが、レバレッジド・ローンのETFには気を付けましょう。

マーケティングセールス部

2020/03/13

金融商品取引業者：ブライツ・アセット株式会社
登録番号：関東財務局長（金商）第3102号
加入協会：一般社団法人第二種金融商品取引業協会
一般社団法人金融先物取引業協会
一般社団法人日本投資顧問業協会
HP：www.brightasset.co.jp

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的としてブライツ・アセット株式会社が作成した資料です。投資勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づき作成されていますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。ここに示された意見などは、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更されることがあります。投資に関する決定は、お客様ご自身で判断なさるようお願いいたします。

米株式そろそろ底打ち？

DOW30とS&P500のボリンジャーバンド(200日)は4σ割れ

DOW30とS&P500のボリンジャーバンド(200日)の過去推移を調べてみました。それぞれ4σを割ったところはいったん底打ちしています。ただし、2008年の世界金融危機(リーマン・ショック)の時は、その後、クレジット市場が機能なくなりそこから半年間さらに売られ続けました。

ただし、NASDAQ指数はまだ2σ(7278)を割ったばかりで、3σ(6706)は割っていません。

いまのところクレジット市場はぎりぎり保っていますが、レバレッジド・ローン市場がさらに崩れれば、2008年～2009年のようになるでしょう。株価も大事ですが、レバレッジド・ローンのETFには気を付けましょう。

DOW30 株価指数

1985年からDOW30株式指数の200日ボリンジャー・バンドを確認しました。大きく相場が調整した時はおおむね3σか4σで底打ちしていました。グラフ中の下にある赤い(↑)が過去4σを割って底打ちしたところです。6回起こりました。1987年のブラック・マンデーでも3σで止まっていた。

4σを割って止まったのは、2001年のITバブル崩壊、2001年のNYテロ、2002年のワールドコム倒産、2008年10月の世界金融危機、2015年のチャイナ・ショック、そして今回のコロナ・ショックです。DOWに関しては、これまでにない変動幅で下落しています。

1985年～2020年3月の対数グラフ

DOW30指数(日次)ボリンジャーバンド(200日:3σ,4σ) 対数グラフ



1985年～2020年3月

DOW30指数(日次)ボリンジャーバンド(200日:3σ,4σ)



リーマン・ショック以降の底値からのきれいなサポートライン上です。

2015年1月～2020年3月12日

DOW30株価指数(日次)ボリンジャーバンド(200日:3σ、4σ)



当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的としてブライト・アセット株式会社が作成した資料です。投資勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づき作成されていますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。ここに示された意見などは、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更されることがあります。投資に関する決定は、お客様ご自身で判断なさるようお願いいたします。

過去にDOW30 株式指数がボリンジャーバンド(200日)の4σ割れをした日

	DOW30 引け値	200日 4σ下値	差額	差(%)	コメント
1987/10/19	1,739	1,650	89	5.1%	※参考:ブラックマンデー 3σ(1830、1812)は割れる
1987/10/26	1,794	1,626	167	9.3%	
2001/3/21	9,487	9,505	-18	-0.2%	ITバブルの崩壊、米のリセッション入り
2001/3/22	9,389	9,443	-54	-0.6%	
2001/9/19	8,759	8,761	-1	0.0%	NYテロ(9/11)の余波
2001/9/20	8,376	8,649	-273	-3.2%	
2001/9/21	8,236	8,530	-294	-3.5%	
2002/7/22	7,785	7,846	-61	-0.8%	7/21 ; ワールドコム破綻の余波
2002/7/23	7,702	7,762	-59	-0.8%	
2008/10/9	8,579	8,921	-342	-3.8%	9/15 ; リーマン・ブラザーズ破綻の余波、世界金融 危機。10/13 ; 日欧米の5つの中銀が資金無制 限供給を受けた直後、ダウ平均株価が936.42ド ル高,幅は過去最大(+11.08%)
2008/10/10	8,451	8,766	-314	-3.6%	
2015/8/21	16,460	16,695	-235	-1.4%	チャイナ・ショック、チャイニーズ・ブラック・マンデー (2015/8/24)の余波
2015/8/24	15,871	16,562	-691	-4.2%	
2015/8/25	15,666	16,415	-749	-4.6%	
2015/8/26	16,286	16,345	-60	-0.4%	
2015/9/1	16,058	16,139	-81	-0.5%	
2020/3/12	21,201	22,243	-1,042	-4.7%	コロナ・ショック
2020/3/13	20,615※	21,914	-1,299	-5.9%	※3/13 東京時間の安値(20,615)でも割れる

S&P500 株価指数

1987年からS&P500 株式指数の200日ボリンジャー・バンドも確認しました。大きく相場が調整した時はおおむね3σか4σで底打ちしていました。グラフ中の下にある赤い(↑)が過去4σを割って底打ちしたところです。3回起こりました。1987年のブラック・マンデーでも3σ割れで止まっていた。

4σを割って止まったのは、2002年のワールドコム倒産、2008年10月の世界金融危機、2015年のチャイナ・ショックだけでした。そして今回の3月13日の東京時間の先物取引で4σ割れとなりました。S&P500に関しても、これまでにない変動幅で下落しています。

1987年～2020年3月：対数グラフ



1987年～2020年3月：グラフ



リーマン・ショック以降の底値からのきれいなサポートライン上です。

2015年～2020年3月12日



過去に S&P500 株式指数がボリンジャーバンド(200日)の4σ割れをした日

	S&P500 引け値	200日 4σ下値	差額	差(%)	コメント
1987/10/26	227.67	216.19	11	5.0%	※参考:ブラックマンデー 3σ(10/26:236.7、 10/27:235.6)は割れる
1987/10/27	233.19	214.78	18	7.9%	
2002/7/22	819.85	828.66	-9	-1.1%	7/21 ; ワールドコム破綻の余波
2002/7/23	797.70	814.50	-17	-2.1%	
2008/10/7	996.23	1008.73	-13	-0.9%	9/15 ; リーマン・ブラザーズ破綻の余波、世界金融危機。10/13 ; 日欧米の5つの中銀が資金無制限供給を受けた直後、S&P500 株価指数が104.13ドル高(+11.6%)
2008/10/8	984.94	995.29	-10	-0.8%	
2008/10/9	909.92	975.95	-66	-5.0%	
2008/10/10	899.22	956.76	-58	-4.4%	
2008/10/15	907.84	919.55	-12	-0.9%	
2015/8/24	1893.21	1932.73	-40	-2.1%	チャイニーズ・ブラック・マンデー(2015/8/24)の余波
2015/8/25	1867.61	1920.75	-53	-2.8%	
2018/12/24	2351.10	2344.962	6	0.3%	※参考:3σ(2446.6)は割れる
2020/3/12	2480.64	2408.40	72	2.9%	※参考:3σ(2568)は割れる 3/13 東京時間先物の底値(2393.5)で割れる

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的としてブライト・アセット株式会社が作成した資料です。投資勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づき作成されていますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。ここに示された意見などは、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更されることがあります。投資に関する決定は、お客様ご自身で判断なさるようお願いいたします。

NASDAQ 指数

NASDAQ 指数が下落局面で下の 4σ を割ったのは、リーマン・ショックの際の 2008 年 10 月のみでした。他の株式市場が調整したときと同じく、NASDAQ 指数の場合はほとんどが 3σ で止まっていた。今回は、2σ を割りましたが、3σ まであと少しです。

1992 年～2020 年 3 月 12 日



2015 年～2020 年 3 月 12 日



過去に NASDAQ 株式指数がボリンジャーバンド(200 日)の 4σ 割れをした日

	S&P500 引け値	200 日 4σ下値	差額	差(%)	コメント
2008/10/7	1754.88	1810.38	-55	-3.2%	9/15 ; リーマン・ブラザーズ破綻の余波、世界金融 危機。10/13 ; 日欧米の 5 つの中銀が資金無制 限供給を受けた直後、NASDAQ 指数は、194.7 高(+11.8%)
2008/10/8	1740.33	1787.30	-47	-2.7%	
2008/10/9	1645.12	1757.38	-112	-6.8%	
2008/10/10	1649.51	1730.14	-81	-4.9%	
2008/10/15	1628.33	1673.01	-45	-2.7%	
2020/3/12	7201.80	6134.67	+1067	+15%	※参考 : 2σ(7278)は割れるが、3σ(6706)はまだ 遠い。4σは 6135。3/13 東京時間の底は 7060。

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的としてブライト・アセット株式会社が作成した資料です。投資勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づき作成されていますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。ここに示された意見などは、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更されることがあります。投資に関する決定は、お客様ご自身で判断なさるようお願いいたします。

レバレッジド・ローン市場は危険水域

レバレッジド・ローン市場が、リーマン・ショック級の信用危機になるかどうかの瀬戸際です。レバレッジド・ローンのインデックスにリンクするETFで値動きを確認しました。現在2つのETFがあります。インベスコ社の「Invesco Senior Loan ETF(BKLN)」と「SPDR Blackstone/GSO Senior Loan ETF(SRLN)」です。ここ数年レバレッジド・ローンの新規発行分の5割以上をストラクチャード金融商品であるCLOが購入しています。CLOは、エクイティーの部分から損失を負担していく構造となっています。エクイティーの割合は、おおむね8~10%程度となっています。AAAクラスは60~70%の割合です。ポートフォリオとして保有しているレバレッジド・ローンが売られてしまうとエクイティーの評価がまずゼロ(0)となります。

10%レバレッジド・ローン市場が下落すると、エクイティーの部分は全損するということになります。その後レバレッジド・ローン市場の下落に合わせて、棄損していくのですが、30~40%以上レバレッジド・ローン市場が下落するとその先はAAAの部分でも、評価が下がっていきます。

3月12日のNY市場では、引け値ベースでも2018年対比で11~13%下落しています。2019年対比では10~11%下落しています。つまり、多くのCLOのエクイティーの部分は評価がすでにゼロ(0%)になっているということになります。

エネルギー会社の数社もレバレッジド・ローンで資金調達しています。原油下落で損失が大きくなる場所が出てくる可能性があります。リテールの中にもレバレッジド・ローンで資金調達しているところがあります。今後コロナ・ウイルスがらみで保険会社が保険金支払いのために保有資産であるレバレッジド・ローンやCLOを売却することになれば、市場はさらに下落していきます。ただし、ウイルスがらみのパンデミックでは戦争同様保険金支払いの対象にはならないようです。

レバレッジド・ローンのインデックスよりもETFのほうが、値動きがリアル・タイムなので、この2つのETFの値動きは注意深く見ていく必要があります。

2008年の9月末から10月初旬のような雰囲気になっています。ここが正念場なので、FRBが来週何かしらのバズーカ砲を打たないとリーマン・ショック並みの信用収縮が起こっても不思議ではありません。FRB頼みだけでなく、空売り規制の強化を図るべく、「アップ・ティック・ルール」の復活なども必要だと思います。

レバレッジド・ローンのETF価格推移 (2018年1月2日~2020年3月12日)

